

事業効果の発現状況(指標①)

伊東港・宇佐美漁港・富戸漁港 港整備交付金事業

(ア) 指標①: 伊東市沿岸観光交流客数の増加

※伊東市沿岸観光交流客数とは遊覧船及び旅客船の利用客数

平成20年度: 15.2万人 ⇒ 平成27年度: 17.0万人

(イ) 施策

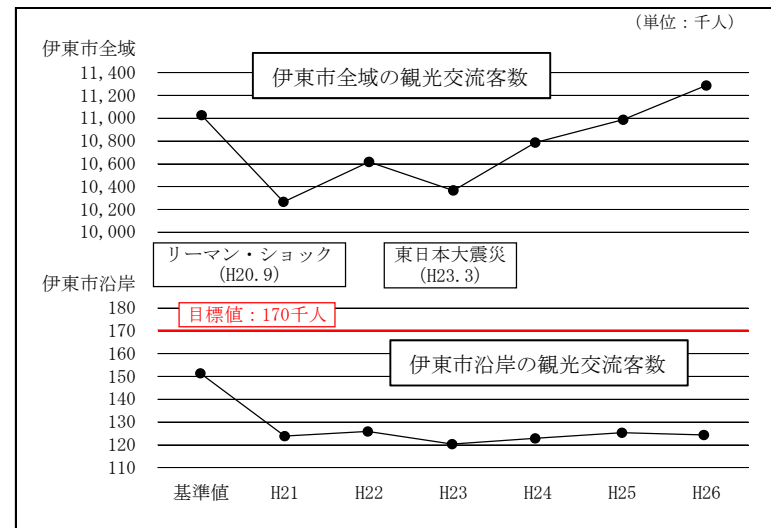
- ・伊東港: 東防波堤L=130.0m嵩上げ
- ・伊東港: 浮棧橋(-5.0m)の整備

(ウ) 結果

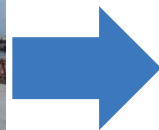
- ・最終目標値: 17.0万人 ⇒ 最終実績値: 12.4万人 未達成

(エ) 考察

- ・リーマンショックや東日本大震災による沿岸域の観光交流客数の減少



伊東港 浮棧橋の整備



小型船が係留可能となったことにより、増加傾向にある伊東市を訪れる観光客に、広く利用を促進し、観光拠点としての役割を担っていく。

事業効果の発現状況(指標②)

伊東港・宇佐美漁港・富戸漁港 港整備交付金事業

(ア) 指標②: 伊東市沿岸漁業者一人当たりの水産物水揚量の増加

平成20年度: 15.0t ⇒ 平成27年度: 18.0t

(イ) 施策

- ・富戸漁港: 泊地(-2.0m) 浚渫V=1,229m³、北・南物揚場(-3.0m) L=48.2mの改良
- ・宇佐美漁港: 泊地(-3.0m) 浚渫V=5,105m³

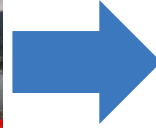
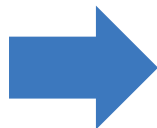
(ウ) 結果

- ・最終目標値: 18.0t ⇒ 最終実績値: 16.5t 未達成

(エ) 考察

- ・通年漁獲していた魚種が、近年の海水温の上昇に伴い、漁獲量が減少している。
- ・資源管理指針に基づく資源保護を目的とした漁獲制限も漁獲量の減少の一因と考える。

宇佐美漁港 泊地浚渫



係留施設の改良等により、労働環境が改善され、水揚作業が容易になり、水産業の振興に寄与している。

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

事業効果の発現状況(指標③)

伊東港・宇佐美漁港・富戸漁港 港整備交付金事業

(ア)指標③:伊東港の避難船受け入れ数の増加

・平成20年度:4隻⇒平成27年度:11隻

(イ)施策

・伊東港:南物揚場(-3.0m)L=20.0m延伸

(ウ)結果

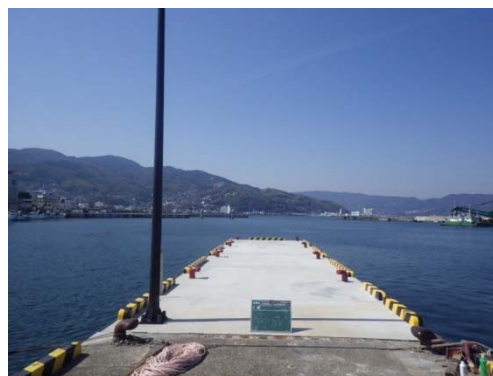
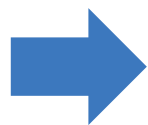
・最終目標値:11隻⇒最終実績値:11隻 達成

(エ)考察

・避難係留できない7隻の漁船を岸壁に直接避難係留できるようになった。

台風接近時に避難係留が可能となり、漁業就労者への支援が図れている。

南岸壁の延伸



事業効果の発現状況(指標④)

伊東港・宇佐美漁港・富戸漁港 港整備進交付金事業

(ア)指標④:宇佐美漁港の安全係船岸充足率(休けい)の増加

・平成20年度:55%⇒平成27年度:100%

(イ)施策

・宇佐美漁港:東留田東物揚場(-3.0m)の整備

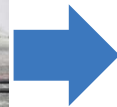
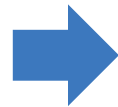
(ウ)結果

・最終目標値:100%⇒最終実績値:100% 達成

(エ)考察

・東留田東物揚場(-3.0m)L=87mを整備し、安全係船岸充足率を満足することができた。

宇佐美漁港 東留田防波堤(天端嵩上げ)、東留田東物揚場(-3.0m)(防舷材、係船環、コーナー保護材)



漁船の常時係留が可能となり、
漁業者の就労環境の改善が
図れた。